

じんけん SCHOLA

～JR大阪駅前第2ビルで『人権知』を学ぶ～
(講座Cだけ<リバティおおさか>で行います)



<http://j-schola.net/>

A シンポジウム アジアの歴史認識対立を双方向から超える 第2ビル6階

8月24日(土) 13:30～17:00 大阪市立大学文化交流センター ホール 受講会費 1,500円

メイン報告：木村 幹 (神戸大学) コメント：朴 一 (大阪市立大学)
司 会：上杉 聡 (じんけん SCHOLA 共同代表)

歴史認識をめぐる日韓(朝)、日中の対立は、根本的な解決をみないまま、米中経済戦争、米朝首脳会談などへと進んできました。これらの対立を、一度立ち止まり、客観的な視点から捉え返し、新たな「学」的方法で問題を整理し、「解決」へのスタンスを作り上げるべきとする木村幹氏の提案を受け、在日の立場から発言を重ねてきた朴一氏と、「慰安婦」問題で研究を牽引してきた上杉聡氏が静かに深く激論を交わします。アジアの歴史認識対立は、新たな次元へと進みます。

B 光と影のフィールドワーク 奈良・大阪 現地集合解散

*参加者はじんけん SCHOLA のホームページに掲載の「人権フィールドワーク原論」を必ず読んでおいてください。

B1 奈良県橿原市・今井町と洞部落 10月20日(日) 9:50～17:00

石元清英 (関西大学) *参加費 3,000円(学生・院生 1,500円、見学代含む)

中世末に形成された一向宗の寺内町である今井町は、周囲に濠を巡らし、江戸時代の町並みを残しています。洞部落は、神武陵を見下ろす位置にあり、神武陵を穢すとして、1918年に強制的に移転させられました。今回は、今井町、洞部落の跡地、洞部落の移転先の久保を訪れます。

集合：近鉄大和八木駅 改札口前 午前9時50分

B2 大阪 釜ヶ崎・飛田・浪速部落 11月23日(土) 10:00～17:00

上杉 聡 (じんけん SCHOLA 共同代表) *参加費 2,500円(学生・院生 1,000円)

「消えるか!?大阪のディープ・スポット 釜ヶ崎～飛田～浪速部落」をテーマに、反差別の視点から3地域を歩き、語り、皮膚と体で考えます。(定員30人、CかGかIの講座1回以上の受講が必須)

集合：大阪メトロ動物園前駅B1西改札前 午前10時00分 (昨年までの集合場所と違います)

C 思索し、ともにひらく新しい部落史 (全10回) リバティおおさか (地図は最終ページ参照)

上杉 聡 (じんけん SCHOLA 共同代表) 受講会費 各回 1,500円

部落の新しい通史『これでわかった!部落の歴史』『これでなっとく!部落の歴史』(解放出版社)の2書は古い部落史観を打ち破り、各地に新たな授業実践と啓発活動を生み出しました。今年から教室を芦原橋へ移し、新生リバティおおさかの出発を支援します。より長い時間が確保できるため、新作DVDの鑑賞、質問・討議時間を増やすなどの充実をさせます。

前期/中近世(全5回) 9/7(土)、14(土)、21(土)、28(土)、10/5(土) 13:30～16:30

教科書は『これでわかった!部落の歴史』(解放出版社)

後期/近現代(全5回) 10/12(土)、19(土)、11/2(土)、9(土)、16(土) 13:30～16:30

教科書は『これでなっとく!部落の歴史』(解放出版社)

D 「人権とは？」(全3回)

大セミナー室

土屋 貴志(大阪市立大学)

受講会費 各回 1,500 円

「人権」とはそもそもどういうものなのでしょうか? 「人権」を掲げなければ差別とたたかえないのでしょうか? 「人権」を掲げさえすれば、どんな差別ともたたかえるのでしょうか? 「人権」が「人の権利」だとしたら、「権利」とはいったいなんなのでしょう? また、小・中学校で教えられ始めた「特別の教科・道徳」と、「人権」および人権教育との関係を、どう考えたらいいのでしょうか? わたしたちが当たり前のように使っている「人権」について、哲学・思想史の視点から、あらためて考えてみます。

1 「人権と『道徳』～日本国公認学校道徳教育と人権教育」

8月31日(土) 10:00～12:00

2 「お互いの人権を侵害しないという約束～社会契約」

9月21日(土) 13:00～15:00

3 「国とはなにか～憲法がもつ意義」

9月28日(土) 13:00～15:00

E 人権の視点で行う「道徳」とは? ～学校現場での実践から考える～

大セミナー室

小・中学校の実践報告 コメンテーター／富田 稔(天理大学)

受講会費 1,500 円 8月31日(土) 13:00～15:00

大きな議論もないまま「道徳」が教科になり、検定教科書を使つての授業が全国の小・中学校で行われ始めました。人権学習、同和学習を実践してきた教育現場は、少なからず影響を受けています。また、教科書のねらい通りに授業すると、「人権の感性」を育てられなかったり、差別的な見方を植え付けてしまう危険性も指摘されています。そのような中、これらの問題点の改善・克服をするため、道徳の教科書を使った授業を「人権の視点」で行うことが提唱されています。「人権の視点で行う『道徳』」とは…。学校現場での実践について、交流しながら具体的に考えます。

F 部落史学習の新しい展開 ～「部落問題学習」の継続的实践のために～

大セミナー室

小・中学校での実践報告 *進行: 木村 直人(じんけん SCHOLA スタッフ)

8月31日(土) 15:30～17:30

*受講会費は無料です。資料代 500 円

部落問題学習は、「差別」や「いじめ」をなくしていくための大切な学習として多くの学校で熱心に行われてきました。また部落の歴史研究の成果は「部落史の新しい認識」として社会の教科書や部落問題学習の内容を変化させてきました。しかし、それを実践するための教育環境は、近年さまざまな面で非常に難しい状況になってきています。部落史学習・部落問題学習の継続的な実践は今、正念場を迎えています。DVD の活用を含め、さまざまな新しい取り組みの実践を知ることは、今日の難しい状況を打開する大きな手掛かりになるでしょう。本講座は、そんな交流会を目指しています。

既刊DVD『シリーズ映像でみる人権の歴史』

■第1巻 東山文化を支えた「差別された人々」

■第2巻 江戸時代の身分制度と差別された人々

■第3巻 近代医学の基礎を築いた人々

■第4巻 明治維新と賤民廃止令

■第5巻 渋染一揆を闘いぬいた人々

■第6巻 日本国憲法と部落差別

G はじめてみよう! これからの部落問題学習

大小セミナー室

石元 清英(関西大学)

受講会費 各回 1,500 円

「部落問題をどのように教えればいいのか、わからない」という戸惑いが教育現場で広がっています。2016年に施行された「部落差別解消推進法」において部落差別を解消するための教育が課題のひとつとされたことから、こうした傾向はさらに強くなっているようです。本講座では、これまでの部落問題学習を検討し、その問題点を明らかにしたうえで、最新の実態調査・意識調査の結果や映像資料などを交え、これからの部落問題学習の内容とその進め方について考えます。

1 なぜ若者は部落に対してマイナスイメージをもってしまうのか

10月 5日(土) 13:00～15:00

2 自分の言葉で部落問題を語るために ～「差別語」問題を整理する

10月12日(土) 13:00～15:00

3 部落はどのように変化したのか ～部落の現在(いま)を考える

10月26日(土) 13:00～15:00

4 部落に対する誤解や偏見を批判する力を獲得する教育とは

11月 9日(土) 13:00～15:00

H 「同対法体制」以後における大阪の「同和」地区の変貌について考える(全3回)

大小セミナー室

島 和博(大阪市立大学人権問題研究センター)

受講会費 各回 1,500 円

2002年の「同対法体制」の終了から17年が経過しました。この17年間で大阪の「同和」地区はどのように変貌したのでしょうか? 国勢調査データをはじめとする官庁統計データやその他の既存統計データの分析を通じて明らかにしたいと思います。とりわけ、「人びとの移動と階層変動」という視点から、「同和」地区の階層構造の変動過程を探り、それをふまえ、流動化する「同和」地区における新たな「社会問題空間」の発生と展開について考えます。

1. 10月26日(土) 15:30～17:30 2. 12月7日(土) 15:30～17:30 3. 12月21日(土) 13:00～15:00

I 飛田学事始めー歴史から考える

小セミナー室

宮前 千雅子(関西大学)

受講会費 1,500 円 11月16日(土) 15:30～17:30

飛田遊廓は、近代になり大阪府の許可のもと設立された遊廓です。本講ではその前史である難波新地の移り変わりから始まり、大正時代に建設された飛田遊廓の歴史を概観します。ほかの遊廓よりも後に建設されたにもかかわらず、飛田は大阪で最大規模の遊廓となります。それは飛田が性売買の象徴となる過程でもありました。飛田の歴史から、日本社会の性秩序や性規範が、どのようなかたちで女性たちに影響を及ぼしていたのかをともに考えます。

J 日韓の歴史認識を超えるための基礎理解

大セミナー室

木村 幹 (神戸大学)

受講会費 1,500 円 10月5日(土) 15:30~17:30

日本による朝鮮半島支配を巡っては、様々な議論がなされていますが、その全体像をつかむことは難しいものです。この講義ではその問題について、そもそも植民地支配とは何なのか、人々は具体的には何に不満を持ったのか、更にはその経済的データをどう読み解くべきなのか等、具体的な問いを立てて解説します。

K インターネットと排外主義、レイシズム (全2回)

大セミナー室

辻 大介 (大阪大学)

受講会費 各回 1,500 円

なぜネットでは、「在日特権」のような偽情報(フェイク)を信じてしまう人が次々出てくるのでしょうか。なぜ易々と憎悪(ヘイト)が煽られてしまうのでしょうか。まず第1回では、私が行ってきた調査研究の結果と社会学や心理学の理論を紹介しながら、そのしくみを説明します。それをふまえて、第2回では、ネット上での排外主義・レイシズムに立ち向かう規制策のあり方を、表現の自由論のポイントをおさえた上で、考えていきます。

1 ネット上でなぜヘイトとフェイクが力をもつのか

9月21日(土) 15:30~17:30

2 ネットに対する規制と表現の自由をどう考えるか

9月28日(土) 15:30~17:30

L 日本の人種主義、排外主義を乗り越えるために (全2回)

大セミナー室

文 公 輝 <ムン・ゴンフィ> (多民族共生人権教育センター)

受講会費 各回 1,500 円

4月の入管法「改正」によって、いっそう多くの外国人が日本で暮らすことになる予想されています。一方で政府は、「移民」政策をとらないとする立場を崩しません。統一地方選挙では外国人の排斥、社会制度からの排除を訴える極右政党が、選挙の名を借りた差別扇動を繰り返しました。この講座では、ヘイトスピーチに象徴される日本の人種差別の実態を学ぶとともに、それを乗り越えるための法制度の課題について考えます。

1 日本の人種差別実態を考える

11月 2日(土) 15:30~17:30

2 人種差別を禁止/被害者を救済する法制度を考える

11月 9日(土) 15:30~17:30

M 障害者問題「出生前診断の問題」から視野を広げ、共生のつながりをつくる! (全3回) 大小セミナー室

堀 智晴 (インクルーシブ<共生>教育研究所)

受講会費 各回 1,500 円

1 シンポジウム「出生前診断について考える」

10月19日(土) 13:00~16:30

当事者、家族、医師を招きシンポジウムをもち、様々な角度や立場から意見交換をして後の2回の講座につなげます。

2 障害者問題の原点をさぐる ~「障害者権利条約」を読み解く

11月 2日(土) 13:00~15:00

半世紀以上にわたる障害者自身の闘いにより、ようやく障害者権利条約が2006年に国連で採択され日本は2014年に批准し2016年には障害者差別解消法が成立しました。しかし、差別の解消に向かってに進んでいるのでしょうか?運動を担ってきた当事者にも来ていただき、最近の世の中の障害者観、障害者施策について原点から考えます。

3 出生前診断と教育

11月16日(土) 13:00~15:00

近年、小学校でダウン症の子どもたちと仲間の一人としてつながる多くの実践が生まれ、出生前診断の問題を前向きに取り組み受けとめる流れもできていますし、他にも様々な取り組みがあります。しかし、その多くは中学校以降につながっていません。これは、中学・高校の問題というよりも、社会のあり方から来る矛盾でしょう。それを、教育現場からどう変えていくか、性教育、道徳教育などともからめて、教育現場での取り組みを考えていきます。

N 「LGBT 教育」をどう進めていくか (全2回)

小セミナー室

石元清英 (関西大学)

受講会費 各回 1,500 円

セクシュアル・マイノリティが強く感じる生きづらさは、決して本人たちのせいではなく、社会の無理解や偏見がもたらすものです。小中学校や高校には、正しい情報をほとんど持たないまま、自分が何者であるのか、自分の仲間がどこにいるのかもわからず、孤立し、悩んでいる児童・生徒がいます。「LGBT 教育」は、社会の無理解や偏見をなくすとともに、当事者児童・生徒へのエンパワーメントにつながるものです。本講座ではセクシュアル・マイノリティの多様なありようを理解し、「LGBT 教育」の進め方について考えます。

1 性教育の意義と課題 ~同性愛について考える

12月 7日(土) 13:00~15:00

2 性の多様性教育 ~トランスジェンダー、インターセックスについて考える

12月14日(土) 13:00~15:00

O 原発と人権 ~原発事故が起こした罪に半減期はない!~ (全3回)

大小セミナー室

伊藤 宏 (和歌山信愛女子短期大学)

受講会費 各回 1,500 円

福島第一原発事故から8年が経過しました。事故は未だに収束していないにもかかわらず、もはや過去の出来事とされつつあるだけでなく、オリンピックに向けて「復興」が盛んに強調されています。しかし事故の教訓が置き去りにされたかのように、国内では原発の再稼働が進み、さらに新增設まで話題に上るようになっていきます。また、今回は1954年公開の『ゴジラ』以降、1950年代、1960年代の特撮映画も素材に取り上げます。

1 8年目の福島第一原発事故~「復興五輪」で見逃されていること~

10月12日(土) 15:30~17:30

2 メディアによる原発報道の課題~原子力政策の問題点は周知されているのか~

12月14日(土) 15:30~17:30

3 特撮映画から読み解く原子力~平和憲法と反核の決意~

12月21日(土) 15:30~17:30

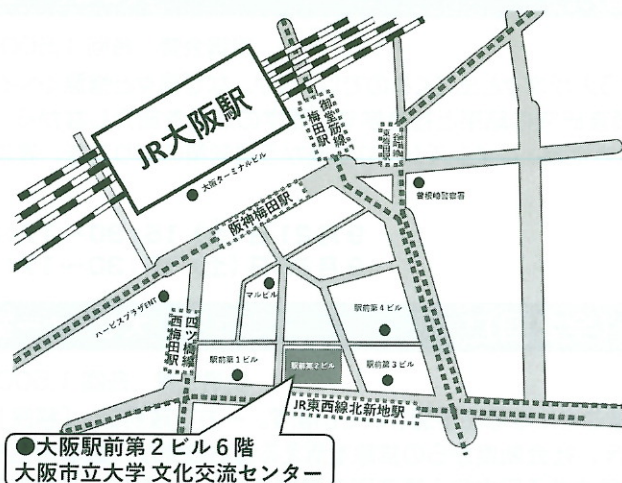
じんけん SCHOLA 会場へのアクセス

●大阪市立大学文化交流センター（大阪駅前第2ビル6階）

最寄り駅はJR東西線 北新地駅・JR大阪駅

大阪メトロ 梅田駅・西梅田駅・東梅田駅

*文化交流センターには、「ホール」「大セミナー室」「小セミナー室」があります。



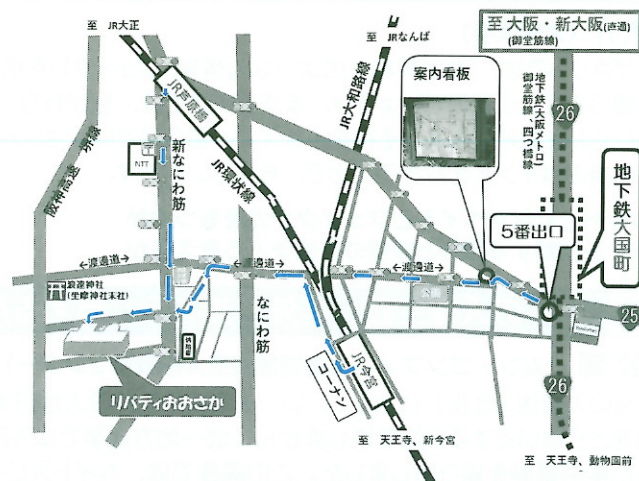
●リバティおおさか（大阪駅前第2ビル6階）

最寄り駅は・JR環状線 芦原橋駅 徒歩7分

・JR大和路線 今宮駅 徒歩8分

・大阪メトロ（地下鉄）大国町駅 徒歩13分

*当日リバティおおさが休館の場合は通用口から入って下さい。



じんけん SCHOLA 受講申し込み方法

別紙申し込み用紙の内容をFax かメール

→ 開講までに、郵便振替またはゆうちょ銀行への振り込み

郵便振替 00900-0-254830 市民のための人権大学院運営協議会

ゆうちょ銀行 店名四一八(店番418) 普通 口座番号:1113880

受講会費:1回1,500円 (事前振り込)

ただしB1、B2（フィールドワーク）とF「部落史学習の新しい展開」は説明欄に記載

・振込手数料はご負担願います。入金をもって申込完了です。

・入金後の返金はいたしかねますので、ご了承ください。ただし、別の講座への変更は可能です。

・学生・院生は500円、高校生以下は無料

・福島原発事故による避難者は無料

研究課程「^{あし}塾」の開設について

上杉 聡（じんけん SCHOLA 共同代表）

「人間は風にそよぐが弱い」本の塾にすぎない。しかし考える塾である（パスカル）と言われ、人類は考えること、学問することを通して生きる力を獲得してきました。「思索し、ともにひらく新しい部落史」の聴講を重ねてきた方々が、さらに自らの研究や教育・啓発上の課題について考え発展させる手助けをします。

定 員:5人 期 間:1年間（前半は講義、後半は論文または授業計画の執筆作成。修了延長は可能）

開 始:2020年2月（2019年6月から問い合わせを受け付ける）

講 義:5回（各回3時間）。日程は、合格者と2020年1月までに協議調整。

課 題:修了時までに論文ないし授業計画（字数制限なし）を完成させる。個別指導を2回以上行う。

志望条件:①講師上杉の講座を合計10回以上受けていること（予定可）

②部落史に関する知見をさらに学び深めた内容を、論文ないし授業計画などにまとめる意欲があること

選 考:志望動機と上記②を説明した申請文と面接による選考。（詳しくは別途要項に記載）

テキスト:『思索する部落史』（稿本を配布）

受 講 料:講義5回と個別指導、合わせ30,000円を前納（含テキスト代）

※ その他詳しいことは運営協議会にお問い合わせください。

主催:市民のための人権大学院運営協議会

後援:関西大学人権問題研究室、国際人権大学院大学（夜間）の実現をめざす大阪府民会議

市民のための人権大学院 運営協議会

〒556-0026 大阪市浪速区浪速西2-3-2-608（上杉研究室内）

FAX 06-7878-6064 メール jinken.schola@gmail.com http://j-schola.net/

*当協議会へのご連絡は、メールまたはファックスをお願いします。（スタッフは常駐していません）